

JENESYS2018 ASEAN 派遣プログラム第 8 陣の記録

テーマ：スポーツ交流(ラグビー)

派遣国：フィリピン共和国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、日本のラグビー青年および引率者計 17 名がフィリピン共和国へ派遣され、派遣国における、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019 年 1 月 29 日～2 月 6 日の日程で「スポーツ交流(ラグビー)」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、政府関係者との面談、NGO と連携し、雇用支援やフェアトレード等を推進する日系企業等の現場の視察、ホームステイを行い、日本と派遣国との関係と日本の国際貢献に関する知見、フィリピン人や生活に対する理解を深めました。ラグビー交流を通じて、同世代の選手や地域の人々との友情を育むとともに、日本のラグビーの魅力、2019 年 9 月に日本で開催されるラグビーワールド・カップ、2020 年に東京で開催されるオリンピック、パラリンピックを紹介し、日本のスポーツ精神や技術等の対日理解を促す発信をしました。帰国前の報告会では、プログラム中の発見と、プログラム経験を活かしたアクション・プラン(帰国後の活動計画)についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】

東海大付属翔洋高等学校 11 名、静岡県立大学 3 名、日本大学三島キャンパス 1 名、四国大学 1 名、日本ラグビーフットボール協会(JRFU) 1 名

2. 日程

- 1月29日(火) 【オリエンテーション】
羽田国際空港発、ニノイ・アキノ国際空港到着
- 1月30日(水) 【表敬訪問】在フィリピン日本国大使館
【表敬訪問】国家青少年委員会
【表敬訪問】フィリピン・ラグビー・フットボール協会
- 1月31日(木) 【学校交流】サン・ファン・シティ国立高校
- 2月1日(金) 【学校交流】オービー・モンテソーリ・センター
- 2月2日(土) 【ホーム・ビジット】サン ファン市
【ホストファミリーとの歓送会】
- 2月3日(日) 【スポーツ交流】フィリピン・ラグビー女子代表選手、マカティ・マーベリック・ラグビー・クラブの選手とのタッチ・ラグビー練習・親善試合(於：マッキンリー ヒル スタジアム)
【文化視察】マニラ市(サンチャゴ要塞、サンオーガスティン教会)

等)

- 2月4日(月) 【訪問・講義の聴講】JICAフィリピン事務所
【日系企業視察】ユニカセ・コーポレーション、【ワークショップ】
- 2月5日(火) 【成果報告会】、【関係者との歓送会】
- 2月6日(水) フィリピン出国、帰国

3. プログラム記録写真

	
<p>1月30日【表敬訪問】 在フィリピン日本国大使館</p>	<p>1月30日【表敬訪問】国家青少年委員会、 フィリピン・ラグビー・フットボール協会</p>
	
<p>1月31日【学校交流】 サン・ファン・シティ国立高校</p>	<p>2月1日【学校交流】オービー・モンテソ ーリ・センター</p>
	
<p>2月2日【ホーム・ビジット】</p>	<p>2月2日【ホーム・ビジット】</p>

	
<p>2月3日【スポーツ交流】フィリピン・ラグビー女子代表選手、マカティ・マーベリック・ラグビー・クラブの選手とのタッチ・ラグビー練習・親善試合</p>	<p>2月3日【文化視察】マニラ市</p>
	
<p>2月4日【日系企業視察】ユニカセ・コーポレーション</p>	<p>2月5日【成果報告会】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

高校生（東海大学付属翔洋高等学校）

国立と私立の高校にそれぞれ訪問したことが印象に残っています。国立高校では歌と踊りで出迎えて頂き、自分たちもその輪に入り、現地のダンスを覚える事ができました。どちらの学校も、バディが一番に迎えに来てくれて嬉しかったです。ラグビーでも楽しそうに試合をしてくれたことが嬉しかったです。両校の皆さんは温かく、優しく、フィリピンの国民性をしっかり感じる事ができました。そしてユニカセ・コーポレーションで聞いた元ストリート・チルドレンの話は、とても心の中に残っています。壮絶で話すことも辛いような内容なのに、笑顔でお話をしていたので、なぜ笑顔で話せるのかと聞いたら、話すことでストリート・チルドレンを減らすことができると思うからだよ、と言われ強い関心を持ちました。

大学生（日本大学）

このプログラム中、一番印象に残っていることは、フィリピン人の国民性です。基本的にフィリピン人はおおらかで明るく、何事も何とかなるといった考え方を持っていました。当初、その考え方や気持ちの持ち方に疑問を持っていました。見まわしてみるとストリート・チルドレンもいる、日本では考えられない光景の中で生活していたからです。そんな中で、どうして幸せそうにできるのだろう？このプログラム中ずっと考え

ていました。9日間フィリピンの様々な場所を訪問し、私の気持ちの中に変化がありました。私が考える幸せとは何だろう。そんな風に考えるようになりました。あなたにとっての幸せって何？と聞いた時に、フィリピンで出会った人達のほとんどが、家族と答えました。生い立ちが違ってても幸せの定義が確立されていることに、私はすごく感銘を受けました。ユニカセ・コーポレーションで出会った元ストリート・チルドレンの青年も、今の幸せは家族で、家族が仕事を頑張る原動力になっていると語っていました。確かに、今のフィリピンには、日本や海外の支援が必要なのかもしれません。そんな中、どんな生い立ちを経ても、家族が幸せを図る基準になるのは、とても素敵なことだと感じました。

大学生（静岡県立大学）

国家青年委員会の表敬では日本の災害知識をフィリピンが参考にしており、チェアパーソンが日本をアジアのリーダーであると仰っていたことが印象的でした。学校交流では、訪問した両校とも温かい歓迎をしてくれ、感動しました。学生同士で連絡先を交換し、滞在中に連絡を取り合いました。プログラム中の別の日に、わざわざ会いに来てくれプレゼントを貰ったときは本当に嬉しかったです。フィリピン人の優しい心に触れることができました。学校交流に関しては公立校、私立校の違いについても学ぶことが多々ありました。実際に一般家庭に伺ってみて、印象に残ったことは、家族の在り方でした。近所の人たちは支えあい、ひとつのコミュニティがひとつの家族のように構成されていました。ユニカセ・コーポレーションでは日本人の方が現地で元ストリート・チルドレンの子たちをレストランで働かせ、独立できるように支援していて、色々な生い立ちを持った子たちが働いていることを学びました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

高校生（サン フアン シティ ナショナル ハイスクール）

静岡翔洋高校の生徒はとても親しみやすい人たちでした。彼らは、日本で暮らす素晴らしさ、日本の文化施設、豊富な資源について紹介してくれました。そして彼らは、フィリピン人やフィリピンのあらゆる事に対し、高い関心を持っていました。日本の学生と交流して、私は心から日本を旅したいと思いました。この交流プログラムを通じ、私たちは、両国に関する知識を共有し、両国の友好を深め、関係を向上できたと思います。今回、私たちフィリピンの学生は、海外から来た人々と、信仰や文化の違いはありながらも、コミュニケーションをとり、絆を深めていく方法を学びました。またいつか、こうした意義ある交流プログラムに参加したいと思います。

6. 参加者の対外発信

 <p>「いいね！」178件 kahoboon 0129~0206 JENESYS フィリピン派遣</p>	<p>待ちに待ったフィリピン派遣に参加しました。人生で一番英語を使った9日間でした。フィリピンの人々はとてもフレンドリーで、笑顔で接してくれる想像以上にやさしい人々で、驚きました。</p> <p>一方で、日本とは異なる生活環境をしている人もいることを学びました。日本は生活をするうえで、恵まれた環境にあるということを感じました。</p>
--	--

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p>Summary</p> <ul style="list-style-type: none"> 1:Infrastructure <ul style="list-style-type: none"> - waterway: Advanced filtration plant and sewage plant - traffic: Rules and public transportation 2:Education <ul style="list-style-type: none"> Philippines : culture education / Japan : Regulation 3:Social insurance system for children <ul style="list-style-type: none"> Child Wealth Act—Child Care Facilities 4:Disaster responses and preparedness <ul style="list-style-type: none"> Hazard map and Evacuation Drill 	<p>【静岡県立大学、日本大学、四国大学】</p> <p>・ソーシャルメディアを使って、生活の基盤である、水質濾過（上下水道）・公共交通システム、子どもの為の社会福祉サービスや災害時のハザードマップについて等日本の強みおよびフィリピンの現状を紹介します。</p>
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Why <ul style="list-style-type: none"> ラグビーを通じてコミュニケーションをし、フィリピン人の人間性、国民性そしてもてなしの心を感じ、日本という国と異なることや、相互の関係性や魅力を発信したい。 ・When 帰国後3月予定 ・Who 高校1.2年生 ・To Whom 全校 ・What 日本、フィリピンの魅力発信 ・How プレゼンテーション(中学・高校生全体に約1500人対象) 	<p>【東海大学付属翔洋高等学校】</p> <p>コミュニケーションを通じて感じたフィリピン人の人間性、国民性、おもてなしの心、日本との相違点、また日比の相互の関係性や魅力を SNS や学校の全校集会で、発表します。</p>

8. 国内報道

 <p>ラグビーで国際交流</p> <p>東海大静岡翔洋高等学校のラグビー部が、フィリピンからのJENESYS派遣生と交流を深めた。</p> <p>現地生徒にルールや日本紹介</p> <p>東海大静岡翔洋高等学校のラグビー部が、フィリピンからのJENESYS派遣生と交流を深めた。2月14日、本校でラグビー部の練習試合が行われ、フィリピンからのJENESYS派遣生も参加した。試合は、本校のラグビー部が勝利した。試合後、両チームの選手は握手を交わし、交流を深めた。また、本校のラグビー部の選手は、フィリピンからのJENESYS派遣生に、日本の文化やルールを紹介した。この交流を通じて、両国間の友好関係を深めたいという思いが伝わった。</p>	<p>静岡新聞（2019/2/14）</p> <p>日本の学校生活、ラグビーのルール説明などの交流を実施した</p>
---	--